

# ウミガメ類の上陸・産卵状況 2023

## NESTING OF SEA TURTLE IN JAPAN, 2023

「ウミガメ類上陸・産卵アンケート2023年」に対してご回答いただいた結果より、集計・整理いたしました。

### アカウミガメ

2023年に集計された上陸・産卵回数はそれぞれ5,793回と2,675回であった。2022年は上陸7,727回、産卵4,108であったため、対前年比は74.9%と65.1%と減少した。本アンケートがスタートした1993年以降のアカウミガメの上陸・産卵回数の推移を図1に示す。1993年から2005年までの産卵回数は2,000～5,000回であった。産卵回数は2006年に大きく減少したが、その後は増加に転じた。特に2008年は急増し、産卵回数ははじめて10,000回を超えた。その後、年変動を繰り返しながら増加し、2013年には約15,000回となった。しかしながら、2014年と2015年に二年連続で大きく減少し、2017年以降は低い水準が続いている。なお、2017年から2020年の低水準においては、日本最大の産卵地である屋久島の情報が得られず、加えて種子島の長浜において十分な調査ができなかったことが影響している（日本ウミガメ誌

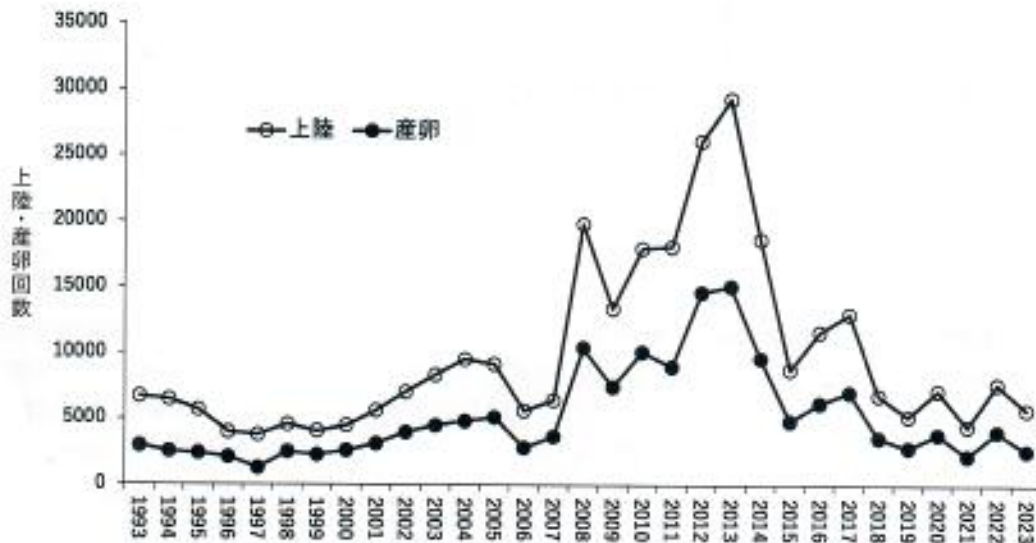


図1. 全国のアカウミガメ上陸・産卵回数の推移

日本で産卵するアカウミガメは、遺伝的に本土（千葉から九州）、大隅諸島（屋久島・種子島）、南西諸島（奄美から八重山諸島）の3つのグループに分かれる（Matsuzawa et al. 2016）この3地域の増減を知るために、地域ごとにグラフにしたものを図2に示した。なお、産卵規模が異なるため、2007年を100とした総対比で示す。全体として、3地域ともに2012年もしくは2013年をピークとして2014年と2015年に大きく減少し、2018年以降は低い水準で推移している。また、3地域ともに今年（2023年）は2007年～2023年までの中で最低レベルの値を示した。

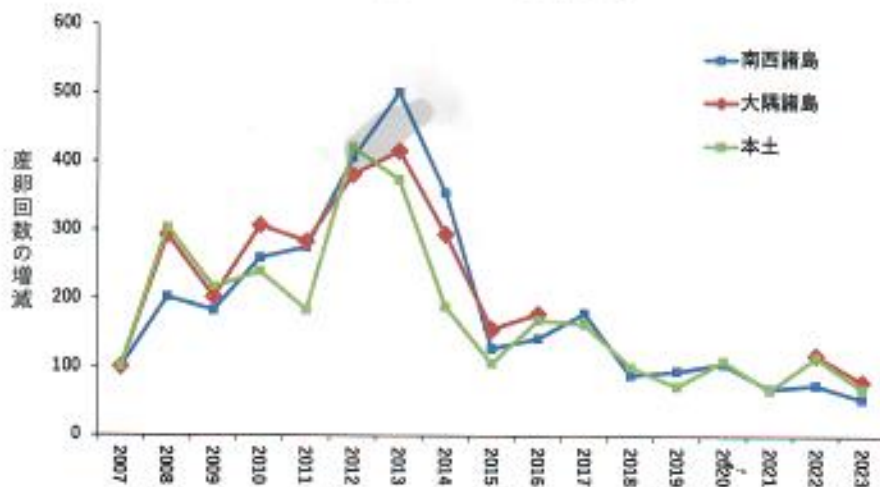


図2. 2007年以降の各地におけるアカウミガメ産卵回数の推移  
2007年を100として増減を示した

## アオウミガメ

日本では、アオウミガメの産卵地は小笠原諸島と南西諸島に二分される。このうち、小笠原諸島では小笠原海洋センターに情報が集積されている。本報では、南西諸島のアオウミガメの上陸・産卵回数について記載する。2023年におけるアオウミガメの上陸・産卵回数はそれぞれ1,398回と892回であった。昨年度は1,832回と1,075回であったため、対前年比は上陸76.3%、産卵82.9%と減少した。南西諸島におけるアオウミガメの産卵回数の推移及び移動平均線を図3に示す。アオウミガメの産卵回帰年数は4年がピークであることから(Abe et al. 2003)、移動平均は4年とした。その結果、アオウミガメの産卵回数の年変動は大きく、ほぼ横ばいか、若干増加していることが分かる。

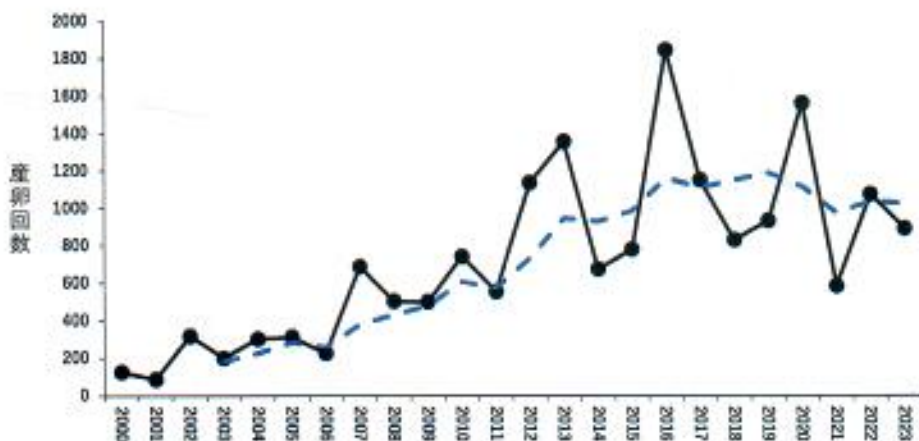


図3. 南西諸島におけるアオウミガメの産卵回数の推移  
黒線は産卵の実数、青点線は4年移動平均線

## タイマイ

タイマイの産卵は奄美大島から八重山諸島で確認されている(水野2010)。現在のところ、恒常的に産卵が確認されているのは、沖縄島以南である。2023年におけるタイマイの上陸・産卵は、沖縄島及び先島諸島において上陸24回、産卵16回が確認された。1996年以降のタイマイの産卵回数の推移を図4に示す。この28年間で246回の産卵が確認された。年平均は8.7回、最も多かった年は2011年の27回、最も少なかった年は1998年の1回であった。タイマイ1個体が年に4回ほど産卵することを踏まえれば(Mortimer 2000)、産卵個体の数は年に1~7個体ほどとなる。

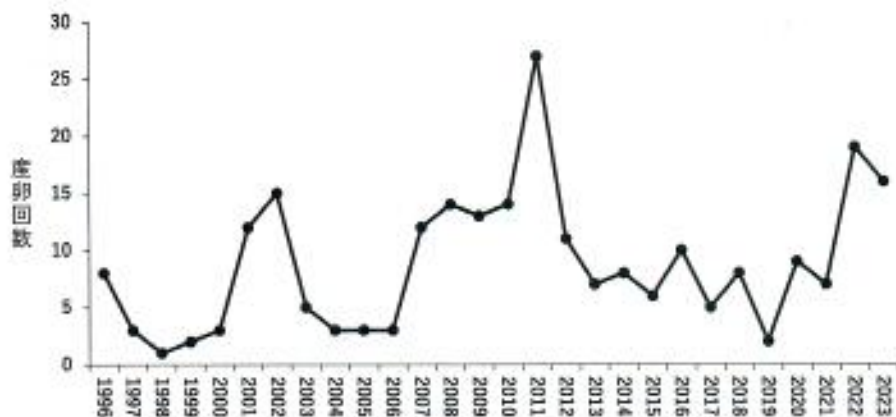


図4. タイマイの産卵回数の推移

## 種不明

種を同定できなかったウミガメの上陸・産卵は、南西諸島において上陸108回、産卵63回が確認された。